

都民の暮らしを支える 運送事業をサポート

運送経営者として堅実経営が第一

ゲスト

浅井 隆氏（一般社団法人東京都トラック協会会長）

四谷の広い道路を挟んで全日本トラック協会の向かい側にある東京都トラック協会。これまでの会長さんには殆ど対談頂いている。昨年、この東ト協第八代会長に就任されたのが株式会社浅井の浅井隆社長。ご尊父は全日本トラック協会会長もなさった浅井時郎さんで、本誌はトラックショー開催で大変お世話になった方である。対談はやや緊張気味でスタートしたが、ご尊父とのご縁をお話して意気投合、忌憚らないお話を伺うことが出来た。東ト協は昨秋、東京の代々木公園で「トラックフェスタ TOKYO 2018」を開催した。このイベントでは、交通安全を呼びかけるステージプログラムやトラックの乗車体験、子ども安全免許証の発行。トラック運送の仕事体験や荷積み・荷下ろし体験などを催し、親子がトラックに親しんだ。浅井隆会長は「このようなイベントを通して、トラックの役割を広く都民に知って頂きたい。暮らしを支えるトラックは社会インフラです。」と語っている。大きな節目となる今年、浅井会長はトラック運送業界の社会的地位向上に全力で取り組む。



東ト協の第八代会長に就任の株式会社浅井の浅井隆社長

●ますます深刻化する
 運転者不足

■秋林路 本日はご多忙の中、お時間をいただき有り難うございます。本誌は東京都トラック協会の歴代会長様には、皆様対談させて

頂いております、特にご尊父の浅井時郎様にはトラックショーの開催にあたり、東京だけでなく北海道にまで足を運んでいただき、並々ならぬご支援をいただきました。こうしてご子息の浅井会長様にも、東ト協の会長として、お話

しを伺うことが出来ますのも深いご縁を感じております。

このトラック運送業界は最近、運転者不足が深刻な上に、働きかた改革が重なって、一段と困難な経営が強いられています。

■浅井 そうですね。この業界

は、流通構造の中でも弱い立場にありますので、労働問題などでもしわ寄せを受けやすい環境に置かれています。特に、事業者個々の力は弱いので、東ト協など業界団体の役割は極めて大きいと考えております。

■秋林路 単刀直入に申し上げますと、私はこの業界は運賃が最大の課題だと思っております。運送業界は平成2年に物流二法が施行されて、事実上、運賃が自由化になった訳ですが、荷主は物流コストを抑えて、販売の競争力を高め

たい立場ですから、自由化になると運賃の引き下げを求めてきます。運送事業免許も自由化に等しい訳ですから、新参の事業者も次々に参入します。この自由化で事業者数は約4万社から6万社に増えています。当然、新参の事業



トラック運送業界の社会的地位向上に全力で取り組む…浅井会長



メーカーとユーザーをつなぐITVショーに協力を…本誌・秋林路

者は生き残るために安い運賃を荷主に提示します。荷主は安い運賃で運んでくれるトラック事業者ほど優秀で、荷主貢献度が高いという評価になりますから、業界は値下げ競争に追い込まれてしまっています。

■浅井 この厳しい経営環境の中で、先輩たちはよくこのトラック事業を続けてきたと思います。

■秋林路 そうですね。でも少子高齢化は社会現象ですから、この人手不足は業界の努力だけではどうにもなりません。本誌は約4年前に全日本トラック協会にご協力願って、自由民主党のトラック輸送振興議員連盟の政治家の皆さんに一年余りにわたってインタビューを連載、トラック運賃の適正化が急務だと訴えてきました。

■浅井 それは有り難いことです。運賃の適正化は、運送事業者個々と荷主との交渉ですが、ある意味ではタブーの話題ですから、非常に難しい面もあります。

■秋林路 私は、トラック運送業界が、戦国時代に追い込まれたのは、この物流二法からだと思っています。物流二法は、物流の効率化によって物価を抑制して、庶民の暮らしに貢献することが目的になっています。この目的は正しいと思うのですが、それによって、トラック運送業界にしわ寄せがく

るのは筋違いですよ。少子高齢化でこのまま運転手不足がエスカレートすると、荷物はあっても届ける人がいなくなるので、物流マヒが発生する可能性があります。その原因は物流二法だし、この法律を作ったのは政治家の皆さんだから、トラック業界の運賃適正化も政治家の役割、というのは本紙の主張です。

具体的にはトラックの運賃の正常化を強く求めたのですが、そのころから国土交通省は女性労働力の活用とか、運賃取り決めの書面化などを政策として打ち出してきましたので、微力ながら効果はあったのかなと思っています。

■浅井 それは側面支援として有り難いことです。この業界は運転手さんが財産です。ドライバーがプライドを持って仕事ができるようにしないと人も集まらないし、運送経営も継続できません。

■秋林路 私は歴代の青年部長さんとも対談してきましたが、若い経営者は不当に安い運賃は受けないという考えが強くなってきているように思います。本来、荷主とトラック運送事業者は対等であるべきだし、荷主は運賃よりも輸送品質で事業者を評価するべきですね。運賃の安さを競わせるのであれば、「安からう悪からう」に陥ってしまいます。

■浅井 それでも、このトラック業界は輸送品質の向上に努めてきたと思います。運転手のマナーだとか、安全運転などに経営者はずいぶん時間とお金を使っています。

■秋林路 その点は頭が下がる思いです。毎日の始業点検や日報の提出、改善のための自主的なミーティングなども定着しています。

■浅井 確かにトラック運送業界は、取引きの面で弱い立場にあるのですが、物流は経済の基本ですし、トラック運送は庶民の暮らしを支える意味でインフラですから、社会的使命を担っている訳です。確かに経営環境は厳しい状態

■秋林路 そうですね。その点、このトラック業界は素晴らしいと思います。東ト協は昨年秋、代々木公園で「トラックフェスタ TOKYO 2018」を開催されました。非常に意義のある事業だと思いました。

■浅井 「トラックフェスタ」は平成28年に創立50周年記念事業の一環として、第1回目を開催いたしました。平成28年は、東京

に置かれていますが、事業者の大多数はプライドを持っています。

●社会的使命の立場で
 会員を支援

■浅井 「トラックフェスタ」は平成28年に創立50周年記念事業の一環として、第1回目を開催いたしました。平成28年は、東京



昨秋、東京の代々木公園で盛大に開催された「トラックフェスタ TOKYO 2018」



小学校における「トラックの日」キャンペーン

都トラック協会にとって、前身の「東京陸上運輸協会」創立(昭和41年10月25日)以来50周年という、記念すべき年でした。半世紀にわたる「歩み」を礎に、新たな歴史の幕開けを期すべき年でもあることから、様々な記念事業を行いました。先ほども申しあげましたが、トラック運送は物を届けるライフラインですから、その役割を都民の皆さんに広く知って頂きたい。縁の下の力持ちだけれども、この活動がなければ庶民の生活は成り立ちませんからね。

■秋林路 トラックの日に合わせたイベントは、地方トラック協会ごとに開催しておられますが、特に大切ですね。東京都トラック協会のイベントは子供さんたちも参

加して大規模に開催されました。将来、大規模災害が発生した時に真っ先に活動するのはトラックですから、普段から都民の皆様がこの業界の役割を広く知って頂くことはとても大切です。

■浅井 昨年は大規模災害の多い年でしたが、この業界は緊急物資輸送で大活躍しました。災害時にはトラックの役割がクローズアップされるのですが、暫くたつと忘れ去られてしまいます。その意味でもトラックの日などの機会にキャンペーンを繰り返す意義は大きいと思っています。

■秋林路 東ト協の活動はホームページに詳しく掲載されていますが、サービスの向上、緊急輸送体制、経営安定の取り組み、交通安

全への取り組み、環境への取り組みなど、事業内容は多岐にわたりますね。

■浅井 トラック運送は道路インフラを使用する事業ですから、基本的には庶民の暮らしを支えることが使命です。ですから、まず事業者自身が健全でどのようなニーズにも対応できなくてはなりません。そのため、東ト協として、会員の皆様にできることは何か、例えば経営であったり、財政であったり教育といったサポートになります。

■秋林路 運送事業者にとっての最大の課題は経営の安定ですからね。

■浅井 その通りです。具体的には各種制度の改定情報や軽油価

格情報の提供、運行管理者試験の受験に関する案内、それに様々な助成(補助)、融資の斡旋も行っていきます。

■秋林路 最近よく首都圏直下型地震が近いと言われますが、緊急時の対応も常日ごろから準備が必要ですね。

■浅井 それは「万が一の時の頼れるライフライン」として位置付けておまして、常に災害時を想定して訓練を行い、災害発生直後の救援物資の緊急輸送から、都市機能回復の復興物資輸送に従事します。災害発生時には、国・東京都・区市町村や防災機関や関東トラック協会と相互に連絡し、情報収集に努めます。また、東京都や関東の各県トラック協会からの

要請を受けて、各支部への協力要請と車両の手配を行い、被災地の緊急輸送拠点や陸上・海上・空輸などの広域輸送拠点や、備蓄倉庫などから物資を緊急輸送します。

■秋林路 防衛や消防は有事の際に活動する組織ですが、トラック輸送もある意味では同じ位置付けですね。自衛隊員も消防隊員もプライドを持った方が多いのですが、そういう意味ではトラックドライバーも大いにプライドを持つべきだと思います。

■浅井 「トラック野郎」という映画の影響もあったかもしれませんが、一般的にはまだ社会的地位が低いと思われています。しかし、大多数のドライバーさんは社会的使命を感じてお仕事をなさっ

ています。

■秋林路 トラックステーションなどで運転手さんにお話しを聞くことがありますが、皆さん紳士ですね。それにフレンドリーです。通常は一人で乗務している運転手さんが多いので、ドライブインで顔を合わせた時には仲間意識が強いのだと思います。マスコミはトラックが関係する事故が発生すると、とにかく悪者扱いしますが、必ずしもトラックが原因とは限りません。最近の裁判では乗用車の「あたり運転」が問題になりましたが、一般ドライバーにも不届きものはいます。トラックドライバーは会社で安全運転の教育も受けているし、常にドライブレコーダーに記録が残っているので無謀な運



株式会社浅井の倉庫・保管事業



主に重量品を運ぶトレーラ



超大物の輸送

転はしません。

■浅井 東ト協も安全運転には特に力を入れていまして、初任運転者特別講習などの各種講習会を開催するとともに、警視庁主催のセーフティドライバー・コンテストへの参加促進なども実施しています。

●株式会社浅井の幅広い事業

■秋林路 よくわかりました。会員の皆様が協会の事業に期待を寄せておられることがよく理解できます。

次に会長さんの会社、株式会社浅井について少し伺います。昔、ご尊父様へのインタビューで「創業当時はリヤカーで運んだ」とおっしゃっていました。そういう話しを、子供のころにお父様からお聞きになったことありますか。

■浅井 父は戦後間もなくの1951年(昭和26年)に、田舎から東京に出て大田区で運送業を始めたのですが、まだしっかりしたトラックはない時代ですから、リヤカーで配達していたようです。でも2年後の1953年には一般小型貨物自動車運送の浅井運送有限会社を立ち上げています。当初から「誠心誠意」、「一業一誠」を座右の銘にしておりましたので、お客様を第一に考えた経営をしてきたと思います。

■秋林路 実はその精神面でのお話しですが、当時、私と一緒に仕事をしていました日新出版の増田周作社長が『今こそ論語』という本を上梓して、ご尊父様にプレゼントしたことがあります。増田社長は歴代総理の師と仰がれた安岡正篤先生の青年部長を大阪で務めておりましたので、論語には明るくて銀座の事務所で成人の論語教

室も開いておりました。

ですから論語には相当自信を持っていまして、世の中が乱れた今こそ儒教精神を養う必要があると意気込んで執筆した本ですが、ご尊父様はその本を手にして一言「今さら論語」と酷評されました。その時には本のタイトルの論議にはならなかったのですが、後で伺いますと、日本にはすでに儒教精神は根付いているので「今さら」と申し上げたんだよ、と私に話して下さいました。

■浅井 それは面白いエピソードですね。父は東ト協の後、全日本トラック協会の会長も務めましたが、歴代会長の中でもユニークな存在であったと思います。

■秋林路 ご尊父にお目にかかった時は浅井運輸機工株式会社でした。

■浅井 浅井運輸機工株式会社への社名変更は1965年です。当

初は一般小型貨物運送でしたが、場所が羽田に近かったこともあって、航空関係に進み、川崎に近いので電機メーカーの重量品輸送や工事の施工などにも業務の幅を広げています。現在は、2003年に株式会社浅井に社名変更し、営業範囲も関東全域から中部、関西へもエリアを広げています。

■秋林路 会社の経営は順風満帆だったのですか。

■浅井 そんなことはありません。創始者の父は語り尽くせない苦勞をしてきたと思いますし、当初からお世話になった最大のお客様が経営破綻した時は、連鎖倒産の恐れもありました。良い時期ばかりではありません。

■秋林路 ホームページを見させて頂きますと、事業内容はずいぶん広がっていますね。

■浅井 これは先代をはじめ、全社員の努力の賜だと思

います。当初父が掲げた「誠心誠意」、「一業一誠」の精神は今でも変わりません。

●正しい未来のトラック情報を

■秋林路 今後の方針などをどのようにお考えですか。

■浅井 私どもの仕事は時代とともに変化して参ります。これまでは都市開発、道路インフラなど国づくりが大きなテーマでしたが、これからは防災であったり、輸送・保管もより高いレベルが求められると思います。当社としてはお客様を第一に、市場ニーズに柔軟に対応して参りたいと考えています。

■秋林路 輸送品質という意味で、運ぶ道具、つまりトラックやトレーラ、荷役機器も大きく変わってくると思います。すでにト

ラックも自動運転が目前に来ていますし、AI(人工知能)とIOT(モノインターネット)の組み合わせで不可能とされていたことが可能になる時代です。

■浅井 実はそういう話しが最近多いのですが、現実の業務にどのように影響するのか明確にはわかりません。

■秋林路 トラックにAIが搭載され自動運転になると、正確なナビゲーションで無人運行が可能になる。すでにその技術は完成していますので、そういう時代が到来するのは、それほど遠くないと考えられます。あとは応用ですが、まだ社会的なコンセンサスを得るには時間がかかると思います。

■浅井 でも実感はまだ湧いてきません。

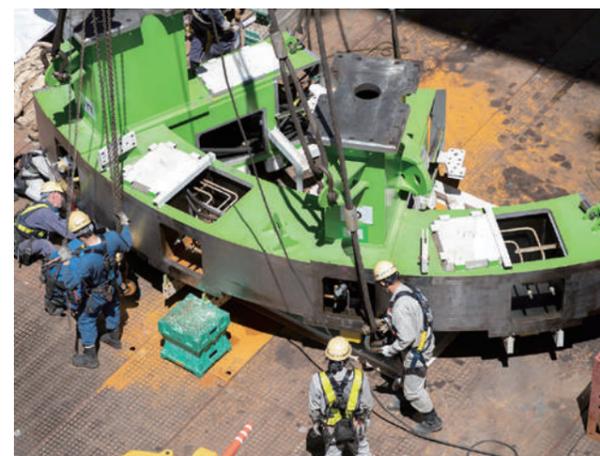
■秋林路 国土交通省は2020年には自動運転をレベル3に引き上



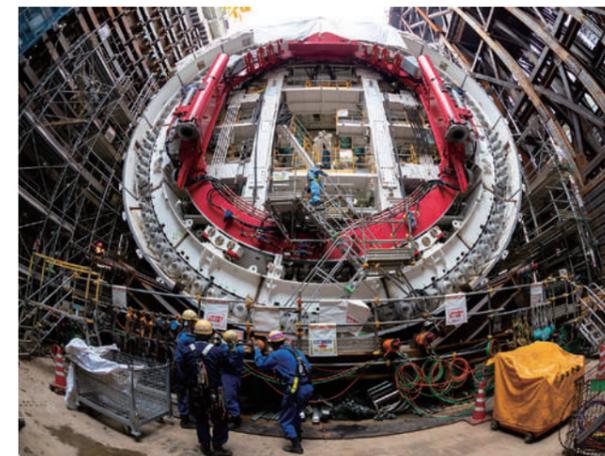
航空機の輸送



空港関係の事業



シールドマシンの組立て



トンネル工事に使用するシールドマシン

げると発表していますので、徐々に理解度は深まると思います。

■浅井 メーカーはそういう情報をわれわれトラックユーザーにもっと提供して頂きたいですね。

■秋林路 これまで輸送機材の情報はトラックメーカーが主に提供していましたが、現状ではトラックメーカーとユーザーのパイプが遊離しています。某トラックメーカーの宣伝担当者が「当社が大型トラックを作っていることを知らない運送会社はない。これからは小型トラックの宣伝だけに力を入れる。」と筆者に話したのでびっくりしたことがあります。トラック、特に大型トラックはユーザーニーズに基づいて開発されるべきですが、その大切な情報をトラックメーカー自らがシャットアウトしているのが現状です。

■浅井 でも当社に出入りするトラックの販売員は皆さん真面目ですよ。

■秋林路 トラックのセールス

は、販売会社の仕事ですから熱心だと思えます。でもトラックを開発するメーカーの技術者がトラックユーザーに情報を求めて訪問することは極めて少ないと思います。

実は一昨年関東8県と新潟、静岡、愛知のトラック協会長さんに連載でインタビューをしました。その時、ほとんどの会長さんは「トラックは我々の希望がメーカーに伝わりにくい」との苦言を呈しておられました。物づくりはユーザーの声を傾けると少量多品種になる恐れがあります。部品点数の多い自動車は、同じ種類の製品を数多く生産して、量産効果でコストダウンを図ろうとしますが、ユーザーニーズを受け入れようとするとメーカー主導の生産は出来なくなります。

■浅井 トラックの価格が上がっても困るけど、荷主に対してより品質の良い輸送を提供しようとすると、それなりの車両が必要

になります。やはりメーカーとユーザーのパイプが切れているのは問題ですね。

■秋林路 我田引水になって恐縮なのですが、本誌は2019年10月に幕張メッセで新しいトラックショーを開催します。同じ時期に全日本トラック協会は幕張メッセで全国トラック運送事業者大会を開催されますよね。

■浅井 はい。昨年10月に香川県高松市で開催した事業者大会で私が発表しました。

■秋林路 実はその発表をお聞きして、私は幕張メッセに協力を求めて2019年10月1日から3日まで、事業者大会が行われる国際会議場のすぐ前(第7ホール)で「ITV」と題した新しいトラックショーを開催することにしました。このトラック運送事業者大会には、遠方の方は前日に来られますし、当日の大会は午後からですので午前中は空いています。また当日は夜まで懇親会が続きますの

で、遠方の方は宿泊されます。従って、事業者大会の10月2日を挟んで三日間の会期があれば、約1500社の参加事業者は必ずこのトラックショーを見るチャンスがある訳です。勿論、このトラックショーには全ての皆さんをご優待します。

■浅井 それは願ってもないチャンスですね。

■秋林路 実はこのトラックショーを「ITV」(インテリジェント・トランスポート・ビークル)と銘打ったのには訳がありまして、自動車メーカーは東京モーターショーで未来の車を展示すればよいと考えていますが、乗用車中心の東京モーターショーを見に行けるトラック運送経営者は限られています。それなら全国の主要トラックユーザーが1500社余りも集結する全国トラック運送事業者大会に合わせてトラックユーザーとメーカーが交流する場を設ければ、ユーザーの声メーカー

に届くのではないかと。ITVには「未来のトラック」の意味が含まれているのですが、トラックメーカーに限らず車体メーカー、トレーラーメーカーもユーザーの声に耳を傾ける絶好のチャンスだと思ふ訳です。

■浅井 今度幕張メッセで開催する全国トラック運送事業者大会は、関東トラック協会の担当で私がおその責任者です。できる限りの協力をしますのでぜひ成功させて下さい。

■秋林路 ありがとうございます。会場は1ホールだけですが、そんなに広くないのですが、できるだけ多くのメーカーに参加していただきたいと思っています。また、事業者大会の分科会で行う勉強会もメーカーの代表とユーザーの代表が「これからのトラックのあり方」について論議するステージであっても良いと考えています。まだ少し時間がありますので改めてご相談させていただ

きます。最後に浅井会長様のご趣味やスポーツなどをお聞かせください。

■浅井 仕事中心の人間ですので趣味は何もありません(笑)。何はともあれ、この重責(トラック協会会長)を全うすること、そして社業を堅実に発展させることが第一です。悠々自適の時期が来ましたら船で海外旅行をするのもいいなと思いますが…。スポーツも学生時代には色々やりましたが、今はゴルフくらいでしょうか。

■秋林路 確かに東京は全国の中心ですし、2年後には東京オリンピック・パラリンピックが控えているので、陰で輸送を支える事業者さんも神経をお使いになると思います。また今年は5月に元号も変わって新しい時代を迎えます。どうか健康に留意なさってトラック業界発展の為に活躍されることを願っております。

本日はお忙しい中、時間をいただき有り難うございました。